



ふかしんメッセージ③⑦ ー 校長から香住のみなさんへ ー

令和6年2月5日(月)

「出^{しゅつらん}藍の誉れ」

昨日2月4日は「立春」でした。関東地方では、今日から明日にかけて大雪の予報が出るなど冬真っ盛りといった天候になってはいますが、暦の上では春を迎えました。これからは「三寒四温」を繰り返しながら日一日と春の訪れを実感するようになっていくのですね。

先週末は、初任校と2校目の勤務校での5人の教え子たちとの再会がありました。

初任校での教え子は、先週初めに思いもかけず連絡があり、先週金曜日に校長室を訪ねてくれました。彼が持ってきてくれたクラス写真を見て、そのクラスのことが鮮やかに思い出されました。彼は、私の初任校最後の担任となった、ちょうど今から24年前の1年生のクラスの生徒で今年40歳になります。私は彼の1年生が修了した年に異動しましたので、それ以来23年ぶりの！再会となりました。23年というブランクがあったにもかかわらず、まるでこれまでも、しょっちゅう会っていたみたいに自然に話ができるのは、教え子と教員との関係ならではのなと感じたものです。

私は全く覚えていませんでしたが、彼によると、私は1年生最初の三者面談の席で「今の成績のままでは2年生に進級できないよ！」と言ったのだそうです。教師の言葉は良くも悪くも、言った教師本人が覚えていなくても、言われた生徒本人は決して忘れてはいないということを改めて痛感させられました(汗)。当時の彼は、勉強よりも陸上競技に打ち込んでいましたので、成績的にはかなり厳しい状況だった彼に学習面での奮起を促すために私はそんなことを言ったのでしょ。

彼は、高校卒業後、地元の大学の経済学部に進学し、大学からの正式の交換留学生としてアメリカとイギリスに1年ずつ留学したということでした。交換留学生になるためには、英語力はもちろんのこと、専門分野についても好成績を収めていなければなりません。このことから、私が知っている高校1年生の時の彼からは想像できないくらい努力したことがわかりました。大学卒業後は、社会福祉の国家資格を取得し、小学校の特別支援学級での支援員を経て、通信教育で小学校教員免許を取得し、小学校教員に採用されたそうです。小学校教員になるまでに、彼は40ヶ国以上を訪問し6ヶ国

で仕事をした経験から、国際交流に関する興味と課題意識も高かったことから、小学校教員を辞め、福岡県の知事部局の国際交流部門での勤務も経験しています。

現在は、もともと興味を持っていた社会福祉や多文化ソーシャルワーク等に関する論文3本を既にまとめ、今年4月からは九州大学の地球社会統合科学府（大学院）修士課程でさらに研究を深め、その後のキャリアを考えることにしていると話してくれました。

そう語る彼の表情は活き活きとしていて、前向きのバイタリティがガンガン伝わってきて、思わず私は話に引き込まれていきました。世界中を舞台に、その時々興味・関心に従って様々な経験を積み、日本的な常識にとらわれることなく、自分が必要と考える学びを深めるために大学院での研究に向かう姿勢は、私に「生涯学び続けるとはこういうことなんだ！」ということを実感させてくれました。

2校目の勤務校での教え子4人との再会は、そのうちの一人の結婚披露宴に招かれたことで実現しました。彼女たちは私の2校目の勤務校で最後に卒業させたクラスの生徒たちで、今年35歳になります。4人とも医師や大手企業の第一線でバリバリ活躍しながら、招かれた3人はそれぞれ1～3人の子育て真っ只中でした。JRの総合職に就職していた教え子は、まだ女性の運転士が珍しかった時代に新幹線運転士の免許を取得して（総合職は必ずそうして現場経験を積まなければならないのだそうです。）実際に新幹線を運転していたという話を聞いた時には驚きました。その教え子の話をはじめとして、彼女たちからそれぞれの分野での仕事のことや子育て、その両立について色々な話を聴くことができました。

彼女たちは、高校時代も非常によく努力し優秀で、人柄も素晴らしい人たちでしたが、高校卒業以来20年近く経った今も、良い意味でそれは何ら変わることなく、それぞれの職場で活躍し、家庭で奮闘する彼女たちの職業人、母親としての逞しくもたおやかな様子に感銘を受け、リスペクトしかありませんでした。新婦の教え子の人柄そのものの心温まる、この結婚披露宴の雰囲気の中での教え子たちとの語らひは、私をとっても幸せな気持ちにしてくれました。そして、彼女たちの姿から私の心に、前向きになる明るい元気をもらったような気がしました。

私たち教師は、ある意味「学校」という狭い世界で生きているのかもしれませんが、しかし、こうし

て様々な分野で活躍する教え子たちから、私たちが経験することのない、あるいは知りえない色々な話を聴くたびに、私たちの世界も広がり、それを現役の高校生に伝えることもできています。そういう意味では、高校時代には「教える」立場であった私が、今度は教え子から「教えてもらう、学ばせてもらう」 ことができている。これが教師という仕事の醍醐味だと感じ、教員になって良かったと実感する時でもあります。私に勇気と希望をもたらしてくれる、頼もしく立派になった教え子たちの言葉や姿、存在は私たち教師にとってかけがえのない宝物だと思っています。

末永く「教え、教えられる」そして、共に成長できる、そんな関係になれる人たちとの出会いと御縁に、心から嬉しく感謝した先週末でありました。

インフルエンザが猛威を振るっています。

福岡県では10週連続で警報レベルになっていて、先週末2日には福岡県内の小・中学校等99校での学年閉鎖や学級閉鎖が報告されています。幸い本校ではそういう状況ではありませんが、決して油断できません！3年生は私立大学入試、国公立大学前期試験を控え、1、2年生は今週木曜日8日からは学年末考査です。香住丘の全員が万全の体調管理に努めなければなりません！

これまでも度々述べてきましたが、インフルエンザは、うがい・手洗いを徹底することで感染を50%防ぐことができるのだそうです。3年生は言うまでもなく1、2年生も、十分な睡眠と三度の食事をしっかり摂って体力（免疫力）を落とさないように心がけ、うがい・手洗い、必要に応じてマスク着用を徹底し、インフルエンザと新型コロナの感染予防に努めてください。

何をするにも健康と体力が一番大切です。

校長 深瀬 信也